

丹波市未来都市創造審議会（第3回） 会議録（要旨）

- 日時：平成30年10月18日（木）午後2時～
- 場所：氷上保健センター 2階ホール
- 出席者委員：
 - 識見を有する者：角野幸博委員、岡絵理子委員、北川博巳委員
 - 公募による市民：白滝里香委員、本庄健吾委員
 - 公共的団体の代表者：大野亮祐委員、酒井浩二委員、大谷吉春委員、吉住孝信委員、田中延重委員、坂谷高義委員
 - 各種団体等から選出された者：足立はるみ委員、足立由夏委員、大木玲子委員
- 欠席者委員：
 - 公募による市民：荻野美恵子委員
 - 各種団体等から選出された者：十倉貫委員
 - 関係行政機関の職員：福本豊委員
- 出席職員：
 - 丹波市副市長、技監兼入札検査部長、企画総務部長、企画総務部政策担当部長、財務部長、生活環境部長、まちづくり部長、福祉部長兼福祉事務所長、健康部長、産業経済部長、建設部長、消防長、教育部長
- 事務局：
 - 未来都市創造部長、未来都市創造部都市創造課長、未来都市創造部都市創造課都市政策係長

- 議事：（1）審議会のスケジュールについて
- （2）丹波市の新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン」について
- ①「まちづくりビジョン」素案について
 - ②庁舎の現状と統合庁舎について
 - ③関連施策（暮らしとまちの姿）について
 - ④市民アンケート調査の実施について

- 資料：【資料1】丹波市の未来をえがく Vol. 2/Vol. 3 ニュースペーパー
- 【資料2】①丹波市未来都市創造審議会 部会結果
- ②丹波市未来都市創造審議会 識見者との協議記録（要約）
- 【資料3】丹波市未来都市創造審議会の進め方
(開催スケジュール及び各回の計画) 改訂版(案)
- 【資料4】丹波市の新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン」素案検討資料
- 【参考資料1】市の現況に関する追加資料
- 【資料5】庁舎の現状と統合庁舎に関する検討資料
- 【資料6】関連施策（暮らしとまちの姿）についての検討資料

【資料7】市民アンケート調査の実施要領（案）

1 会長あいさつ

前回の会議から少し時間が経っているが、その間に部会ではいろいろと意見交換をしていただいている。それらを踏まえて、大変限られた時間ではあるが、活発な議論が進められればと思う。

2 議事

（1）審議会のスケジュールについて

事務局（資料3の説明）

平成30年度で審議会での審議を終了する予定であったが、検討が多岐に渡るため平成31年度まで延長したい。平成31年度には審議会を3回開催する予定である。

【意見要旨】

- ・特に意見はなく、スケジュールについて承認決定

（2）丹波市の新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン」について

- ①「まちづくりビジョン素案」について
- ②庁舎の現状と統合庁舎について
- ③関連施策（暮らしとまちの姿）について
- ④市民アンケート調査の実施について

事務局（一括で資料4・参考資料及び5～7の説明）

【意見要旨】

会長

20年後の将来に目指すべき都市構造として、現状の様々な施設の立地状況を確認し、市の中心部を位置付けて、その中の都市機能の集積地を5種類にゾーニングして都市空間の誘導を図ることと、中心部以外については、中心部のゾーニングと同様に生活関連サービスの集積ゾーンを設けること。25の自治協議会の活動拠点を市の都市構造の根幹として位置づけるという提案である。それらの都市機能を公共交通によって結び、移動の円滑化と都市機能の連携強化を図るということの説明があった。テーマごとに意見交換を進めたい。

委員

今回、大きく考え方が示されたところは、中心地の概念とゾーニングである。中心地の概念は、人の動きを考えた上で検討しなければならないと思う。地域と中心地を結ぶ中で、中心地として必要な機能は、行政機能と医療機能と商業機能だと思う。行政機能があり、その近くに医療機能、商業機能があるからこそ、人の動きが生まれ、それこそが中心地だと思う。ゾーニングは、今ありきの姿であると感じる。柏原～氷上～春日一帯のゾーンを中心地と呼ぶには広過ぎるのでは。本来的な人の動きや将来を見据えた交通の計画が、広域な範囲の中心地の構成で果たして上手く機能する

のか、もっと集約してより狭い地域でまちを構成していかなければ、本末転倒になるのではないか。

遊休地の活用が相応しいのか、現在の集積を鑑みただ中で、行政機能を配置すべきだと考えるのか、建設コストだけではなく、将来のランニングコストも踏まえて考えていくべきではないか。

委員

市民にとって楽しめる施設がどこにも記載されてない。ここに行けば皆が集まれるという、市民が一つになって楽しむ場は必要だと思う。丹波市は多くの町が集まってできたので、市庁舎を新しく建設するのであれば、そういう施設が必要だと思う。

現在、全国的に広場づくりが盛んであり、自分自身が何かをする、それを皆に見てもらおうということも含めた楽しめる場所の要素を取り入れていただきたい。岩手県紫波町の「オガール紫波」のように、都市的なものがあるけれども、地元のものもきちんとあるような、新しい商業施設を造るくらいの勢いが必要ではないか。新しい都市構造を造るので、そのような発想もあってよいのではないか。

委員

現状から見て、無難な計画になっていると思う。斬新さや新たな考え方があってもよいのではないか。現実には、周辺部は協議会自身の存続も難しいので、地域における身近な地域課題の解決ということを書くのはよいと思うが、それに向かってこれからどう具体的に進めていくのかを考えなければならない。

委員

感想からですが、合併前にこのような資料があったらよかったと思った。今になって「合併しない方がよかったのではないか」という意見まで出てくるような状況がある。その中で、将来、丹波市はこのようになっていくというビジョンを示してもらったことについては、非常に良いと思う。

中心部に機能を集約することは問題ないが、広過ぎるのではないかとと思う。鉄道を軸にしてまちづくりをするのか、行政の中心や商業施設の中心、医療・福祉の中心としてまちづくりを行い、それを公共交通で結んでいくのか、視点が錯綜していて難しくなるような感じがする。

将来的には、商業ゾーンにおいても、現在あるものがそのまま続くとも思えない。商業ゾーンについては、ユニークなことをした方がよいのではないか。

委員

気になるのは、中心部の都市機能集約のイメージである。機能分担して、集約していくと利用性が上がるし、コストも下がるということは分かる。

都市の魅力や機能というものは、「巡る」とか「溜まる」とか、人がどう移動するかということも考えなければならない。人の動きを考えると、病院に行った後に買い物をし、人に会って、帰る

というような「周遊する」機能が必要であり、時には、人と会って食事をして楽しむという「溜まる」機能も必要である。果たして、このようなゾーニングでできるのかという疑問がある。

事務局

ゾーニングイメージの提示部分については、丹波市の現状を最大限にいかした中で将来はどうなるかを考えているということが根底にある。全く新しいものを新しいところに造っていくものではないということが始まりである。

「周遊」の機能については、公共交通を軸としたシステムは、丹波市ではベースとしては、ほぼ出来上がっている。地域内移動はデマンドを利用し、地域間は少し広い中心部の中の公共交通を活用して、比較的皆さん方が自由に行きたいところへ行けるような体制が整うことを目指すことにより、周遊機能の課題は解決できるのではないかと現状では考えている。

委員

駅は一つのターミナルの拠点となるので、それを開発して上手く捉えていくということ、駅のない地域の拠点をもう少し選定して機能集約していく等が必要ではないかと思う。

委員

ハード的な整備はこれまでに市が行ってきた中で、新たな都市構造を考える時に、これまでのものが中心になる。アンケートを実施すれば「住み慣れた地域で住み慣れた生活をおくりたい」という意見が多く出てくる。30年後、中心的な地域は、ある程度の現状維持ができていても、周辺部の地域はますます疲弊していくということのないように、一定の計画を立てておかなければならない。「この地域に住みたい」という地域の人々の住民意識を高めて、将来性の考え方を共有していくことが必要ではないか。

委員

住み慣れたところに住み続けるというのはなかなか難しい。周辺地域の人々が中心部に行くには交通手段が課題になる。

また、様々な団体が、例えば市民プラザの中にといったような同じ場所にあれば、市民から見ても分かりやすい。今住んでいる丹波市民が楽しめるように、市民のために市民が集える場所の整備にお金を使っていただけないか。

委員

残念だと思ったことは、「丹波は元気がない」という点である。子どもに夢を持たせる、子どもが楽しめるものが欠け落ちているような気がする。丹波は都会に一番近い田舎で、特急で大阪から1時間余りのところにある。鉄道は将来的にも絶対に無視してはいけない。複線化は大事であるが、それまでにやるべきことはたくさんある。

ICOCA等のICカードを使えない不便さがある。住民生活の利便性の面においても、豊かにするという意味で、今後の大きな課題ではないかと思う。

また、子どもに対して意見を聞く必要がある。小学生を対象とした調査での回答で、丹波の子どもたちの声は、「便利なまち」「楽しいまち」と答えたようである。「便利」と「楽しく遊べる」まちというのが、子どもたちの基本的な希望のような印象を持っている。

会長

今後20年、あるいはその先を見据えた時の統合庁舎のあり方、それから現在の庁舎のあり方について、ご意見を頂きたい。

委員

確認したい。【資料5】2ページの「分庁舎方式による庁舎の維持管理経費等のロス」の金額は以前のもものと違うがどのような根拠か。

事務局

本日資料を準備していないため、回答は次回に行う。1.2億というのは説明会でも示している数字で、既に公表済みのものです。

委員

前回の分科会でもいろいろな意見が出ているが、あらゆるものに即座に対応できるような機能の集約という意味では、統合庁舎は必要かと思う。統合庁舎を中心として周辺の様々な機能の向上も図れるので、構想として持つことは必要だと思う。

委員

市役所の位置については、市役所職員は市外への出張など、頻繁に動かれるとともに、同時に他所からも来ていただかなければならない。市民にとって便利な場所であることは大事であるが、庁舎そのものの活性化という意味では、公共交通に近接していることが必要である。そのことは国や県とのつながり、また、そこに勤める方々の生活にとっても大事なことである。

会長

市民が市役所を使うという視点での意見はないか。

委員

研修会等を行う場合は、丹波市は広く車でなければ来られないので、駐車場が広い所とか、高齢の方に車で来てもらうのは気の毒だとか、いろいろ考えなければならない。皆さんも困っていると思う。市民の方々も毎回「遠い」と言われるので、その辺りを上手く考えられないか。

会長

市庁舎の今後の機能を考えると、効率的な行政事務が行われることと、市民が集まりやすいこと、行政的なネットワークの中で他所からも訪れやすいこと等、いくつかの視点がある。

委員

行政のあり方はどこも同じで、総合政策や全体像を決定することは1ヶ所で行った方がよい。また、市外へのアクセス等を考えると、アクセシビリティの良いところと思う。ただ、行政には市民サービス部門があり、まちづくりや福祉等に関して市民からの相談窓口を1ヶ所だけに機能を置くことはどうなのかと疑問に思うところもある。必ず、地域センターのようなところで市民サービス部門を強化するという話が出てきて、強化するにはどうすればよいかという課題となる。

もう一つは、頻繁に起こる災害への対応についての問題があり、まちづくりや福祉、災害等については、分担機能を持った方がよいのではないか。

会長

私は間もなく中座しなければなりませんので、次の議題からの進行を副会長に依頼する。

委員

【資料6】の関連施策について意見を頂きたい。

会長

関連施策のテーマは今まで議論していることそのもの話であり、それぞれの生活感覚や次の時代に私たちはどのような生活を望んでいるのかという視点から、是非ご意見を頂戴したい。

委員

8つの項目があるが、どこにも働いている姿がない。日常生活はともかく。消費しているだけなのが気になる。働く場の視点での項目も入れられないか。

事務局

ご指摘の項目について、検討する。

委員

【資料7】の市民アンケート調査の実施についてご意見を伺いたい。

委員

人生80年の時代なのにアンケート対象を69歳までとしているのはなぜか。

事務局

20年後の未来をテーマとしているので69歳までとしている。対象年齢の拡大については検討する。

委員

元気で頑張っておられる方も多いので、検討してほしい。

委員

市民アンケートをする場合、経験したことのないことは、回答としてほとんど答えにくいので、ニーズを調べることは難しい。そのため、私事として答えられるような質問の設定を行ったほうがよい。

また、答えていて丹波市に住んでいることが嬉しくなるような質問の仕方がよい。課題や問題ばかりを訊くのではなく、どこを伸ばしていきたいか、どこを大事にしたいかということを問うような質問を加えていただければ。

委員

「20年後にこういうまちになっていたら楽しい」というような設問も入れていただくと、アンケートに答える人も増えるのではないかと思うので、再検討していただきたい。

委員

4年前に芦田地域の中学生以上の方々にアンケートした時に、非常にたくさんの意見が出てきた。もう少し年齢の幅を広げられないか。

委員

それも含めて検討していただけるか。

事務局

含めて検討する。

3 その他

(特に意見なし)

4 次回(第4回)審議会開催日程予定

事務局

本日、次回開催日が決定できなかったことから、1月も含める形で改めて調整する。

5 閉会

副市長

大変ご熱心にご審議、ご議論をありがとうございました。

今回、ご提案させていただいた中で重要な事項は、単に中心部とするのではなく、その中でゾーニングをしてはどうかという提案をさせていただいた。これに対して、中心部全体が広過ぎるのではないか、もう少し集積すべきではないかというご意見を頂いた。

ゾーニングに対しては、都市の魅力は必ずしも効率性だけではなく、いくつかのいろいろな機能が混じり合っている方が魅力的ではないかという意見もあった。これから方針を決めるにあたって、中心部のエリアの広さと、ゾーニングは重要なところである。もう一度、次回にご意見を伺うことができると考えている。

夢のある楽しい未来、あるいは、楽しい施設の集積が示されていないという意見もいろいろと頂いた。「楽しい」という意味も、丹波市独自の、あるいは丹波市らしさが出るような楽しさをどう配置していくかということが重要である。生活者の視点から「20年後、私たちはどのような暮らしをしたいのか」というところ、「楽しい」という意味がどういう意味なのかということビジョンにきちんと落とし込んで、実現するためにご提案いただければ。

今後とも、ご協力をお願い申し上げます。

副会長

以上で第3回の審議会を終了する。長時間にわたり、ありがとうございました。